



右／最上階の作品所蔵庫
左／中本誠司氏（館内の写真から）

カケスの森の カサ・ブランカ

～中本誠司現代美術館が目指しているもの～

梅森 靖夫

仙台市の青葉区と泉区
の境には水の森がある
が、その近くの小学校
に旧い貝殻が露出し
ている場所がある。
おそらくは、団地造成
のため山が削られたの
であろうが、周辺には
ゾウの仲間の化石も出た

ことがあつたらしい。かつて
は海があつたのだろうか
今は住居表示がされてしまつたが、
以前は、「荒巻字カケス崎」という字名
であり、旧街道があつた場所でもある
住宅が立ち並んだ頃、徐々に城が建つ
地に転居していた筆者は記憶している
その城は、画家である中本誠司氏が
自ら建設したモニュメント、「我々の家
中本誠司個人美術館」であった。白い
輝きを放つた建物は、白亜の城のよう
であり、地中海に面した城塞のよう
もあり、氏がこつこつと建設して行く
様子は、サグラダ・ファミリアの建設
もかくありきと思えるようなもので

てきた（一九七六年）ことを同じ団
地に転居していた筆者は記憶している
その城は、画家である中本誠司氏が
自ら建設したモニュメント、「我々の家
中本誠司個人美術館」であった。白い
輝きを放つた建物は、白亜の城のよう
であり、地中海に面した城塞のよう
もあり、氏がこつこつと建設して行く
様子は、サグラダ・ファミリアの建設
もかくありきと思えるようなもので

住宅地の“お城”



あつた
現在は、中本誠
司現代美術館（一
九八〇年）とな
なつてゐるが、
住宅地にある同
館について、美
術と地域という觀
点から、館長の今野
氏にお話を伺つた

美術館の建設

—中本氏はなぜここに美術館を建設されたのでしょうか
館長 中本さんは、一九三九年に屋久島でお生まれになり、早くから画家になることを志していました。荻窪で働きながら美術の学校（東洋美術学校）に通い、創作活動をされていました。下宿の大家に作品を処分されたこともあり、一九七三年に仙台に移られて来て、ご自分で建設されたようです
—この建物の表記は日本語とスペイン語ですが

しあうね。

ビールを始め酒はお好きでした。鰯を自ら捌いたりして。若いアーティストと共に楽しまれていたとのことです。松島現代アート—〇〇展（一九九一年）のときは、凄かつたらしいですよ

また、不忘山のアート・フィールドでは、お一人で、英国人作家と一緒に、また、若い芸術家たちと、創作の構想や議論をされました。アート・キャンプ（一九九一年）もされ、地元の方とも仲良くなり、皆さん農作物を送ってくれ、それでまたパーティーをしたそうです

—中本さんを取り囲んで芸術家が集まつていたのでしょうか

館長 中本塾だったのでしょうか。私は、「海の学校、山の学校」と呼んでいます。若いアーティストを育成していくこと、よく彼は、若いアーティストに「お前は何者だ」と質問したことです。単なる名前や職業のことではなくて、「おまえは何をしたいんだ。どんな芸術を目指しているのだ」ということなの

館長 一九七二年にソヴィエト、ヨーロッパ、アフリカを旅行されています
が、スペインに八ヶ月程滞在し、ピカソの生誕地マラガで制作活動をされました。ピカソを始めスペイン人の作家はお好きでした。砂浜に居て、波によつて形づくられる造型にインスピレーションを受けたらしいです
—この建物の設計はご本人なのでしょうか

館長 ご本人だと思います。工事も基礎部分を除き、中本さんがご自分でされました。空間の枠をしつかり作るのがお好きで、カンバスの枠もしつかりとしたものを自作していました。若い頃、造船会社等で働いたこともあります。溶接もお好きでした

中本誠司という人とは

—どんなお人でしたか
館長 皆さんのお話を伺うと、仲間でパーティーをするのが好きだったみたいですね。酒と肴を振る舞うことが毎日のようにあつたとのことです。いろいろな仲間が集つたので

でしよう。彼はそれを訊き、海外に行くことも含めて、様々な助言をしていましたし、その分野の人を紹介していました。彼自身が絵画、彫刻、写真、ビデオ、音楽、舞台と表現することはお好きでし、自分に足りないものについては、才能ある人に任せるということをしていました。

一画家にとどまらない、制作者だったのでしょうか

館長 表現したり物を作つたりするのが好きでした。収集癖があり、それを作品にしてしまうのです。また、東京時代や海外での人脈もあり、総合プロデューサーでもありました。白Aも、ここでパフォーマンスをしていたんですよ

一豪放磊落なお人だったのでしょうか
館長 確かに肉体派でしたが、繊細でもあつたようです。他の批評家については気にはしませんでしたが、ただ一人、山岸信郎さんに褒めてもらえればいいという感じでした。氏と会う時は緊張していたといいます



右／スペイン語の表記とロゴ
左／美術館正面・催事案内

個展の場、パフォーマンスの場、音楽の場として

一美術館としてはもちろん、一九八二年からミュージアム・コンサートを開催されていますね

館長 中本さんに縁のある方々を中心いて、音楽関係者がボランティアで開催しています。チエンバロもありますし、今では有名となつた方も演奏してくれるので、マスコミの記者も驚いています

中本さんも音楽はお好きで、ドラマのセットを持っていました。ピアノにもご興味があり、フランス人作曲家の作品を弾きたがっていたみたいですが、どの作曲家の曲かは判らずじまいなのが残念です

一いろいろなパフォーマンスもされてますね
館長 もちろん、月を決めて中本さんの作品展は定期的にしています。また、絵画にとどまらず、さまざまな作品展をしています。先日も仙台アンデパンダン展や今野カズオさんの個展をしています

「お前は何者だ」という声が聞こえた感じがした。仙台で美術と地域について、私は何が出来るのだろうか。そんなことを思いながら、白い城を後にしました

これからの中本誠司現代美術館 一今後、美術館の目指すものはなんでしょうか

館長 現在は、NPOとして運営していますので、賛助会制度なども取り入れ、多くの方に運営に参加していただきたいです

また、中本さんがアーティストを育てることがお好きだったこともあり、アーティストの成長を助けていきたいです。海外に居る中本さん由縁の方々や海外の美術館とも連携して、アーティストが相互に個展を開ける機会を作りました。中本塾など芸術との仲立ちをしたいですね。周辺には美術系の大学もありますし、地域の小中学校とも連携していきたいです

一中本塾でしょうか

館長 アーティストとの、いくつかの美術館との、この地域とのネットワークを作つて行くことが館長として私は課せられた役割だと思って、活動しています。多くの人がここをサロンとして自由に入り出していますが、交流の

場を続けていければと思っています

二週間後の夏越祓の日、外観を撮影するため再度同館を訪ねたところ、中本氏の小作品展が開催されました。部屋の中で誰が弾いていたのでしょうか。莊重なチエンバロの調べが住宅地に流れていた

彫刻、絵画、音楽といった西洋芸術は、貴族社会や富裕層とは切り離せないと思うが、現代芸術は場があれば、個人や地域が発信することが可能になつているのではないだろうか

それを中本さんは提供していだし、中本誠司現代美術館はこれからも支援していくと感じた

インタビューの後で館内と作品を案内していただいた。がつちりとした木枠のカンバスに描かれた作品の色使い、砂の

霧雨が降つていた。館長は、「今日は中本さん、来ているな」と仰った。中本氏はもつといろいろな表現をしたかったのであ

館長の今野さんとチエンバロ

